短期予報解説資料 2025年10月26日15時40分発表 気象庁

1. 実況上の着目点

- ① 前線を伴う低気圧が日本の南を東北東進。前線は南西諸島付近から日本の東へのびている。先島諸島付近と伊豆諸島付近では前線近傍で1時間50mm以上の非常に激しい雨を解析し、発雷を多数検知。前線を伴う低気圧が三陸沖を北北東進。前線は伊豆諸島付近へのびている。500hPa 5580m付近の正渦度極大域に対応した低気圧が日本海を北東進。
- ② 日本の東の高気圧が東北東へ 移動。華中の高気圧は、ほとんど 停滞。
- ③ 500hPa 5280m以下で-39℃以下

北日本では27日にかけて、東日本では26日は、土砂 実況~ 35kt FT12~ 40kt 災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒。北 FT30~ 45kt FT36~ 50kt 日本と南西諸島では27日にかけて、東日本では26日 FT42~ 55kt は、落雷、突風、降ひょうに注意し、局地的に竜巻など 12 36 12 の激しい突風に注意。北日本では27日は暴風に警戒 36 FT36 し、高波に注意・警戒。全国的に27日にかけて、強風 やうねりを伴う高波に注意。北海道地方では28日は、 暴風に警戒し、高波に注意・警戒。ま 24 12 36 48 FT48 台湾海峡 FT06~ 35kt 実況~ 35kt FT12~ 40kt FT18~ 45kt 破線は地上のシアーライン。 前線記号の黒塗りはFT24、白抜きはFT48。

主要じょう乱解説図

の寒気を伴う寒冷渦がアムール川下流付近を東南東進。

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①の三陸沖の低気圧は27日にかけて急速に発達しながら北北東進、日本の南の低気圧は発達しながら北東進する。その後、西高東低の気圧配置となり、関東の東海上にシアーラインが形成され、28日にかけて上空の寒気が南下する。日本海の低気圧は、27日にかけて、500hPa 5280m付近の正渦度極大域に対応して発達しながら間宮海峡付近へ進み、日本海の低気圧付近からのびるシアーラインが27日朝から27日夜にかけて北日本を通過する。前線や低気圧とシアーラインに向かう下層暖湿気や上空の寒気の影響で、大気の状態が非常に不安定となり、雷を伴い激しい雨の降る所がある。北日本では27日にかけて、東日本では26日は、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒。北日本と南西諸島では27日にかけて、東日本では26日は、落雷、突風、降ひょうに注意し、局地的に竜巻などの激しい突風に注意。また、1項②の高気圧と前線や低気圧との間で気圧の傾きが急となり、非常に強い風が吹き、波が高くなり、しける所がある。北日本では27日は暴風に警戒し、高波に注意・警戒。全国的に27日にかけて、強風やうねりを伴う高波に注意。
- ② 1項③の寒冷渦は28日にかけてオホーツク海へ進む。2項①の間宮海峡付近の低気圧は、28日にかけてオホーツク海に進み、三陸沖を北上する低気圧と一体化し、寒冷渦に対応して暴風警報級に急速に発達する。低気圧周辺では、非常に強い風が吹き、うねりを伴い波が高くなり、しける所がある。北海道地方では28日は、暴風に警戒し、高波に注意・警戒。また、上空の寒気の南下で大気の状態が不安定となり、雷を伴い降雪となる所がある。北日本では28日は、落雷や突風に留意。
- 3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。
- 4. **防災関連事項[量的予報等]** ① 雨量(18時からの24時間): 多い所(100mm以上) はない。
- ② 波浪(明日まで):北海道・東北・沖縄4、関東・伊豆諸島・北陸・東海・近畿・中国3m。③ 高潮(明日まで):東日本〜西日本では、注意報基準を超過する所がある。
- 5. **全般気象情報発表の有無** 発表の予定はない。

量的な予報については、今後の状況により変化する場合がありますので、注意報・警報や全般気象情報等に記述する数値を利用願います。